

【親子でクッキング】

向原保育園では手作りカレーを使用しています。カジキ、エビ、イカが入っているシーフードカレー、ひよこ豆や季節の野菜等、具材を変えて献立に取り入れています。市販のカレールウとは異なる我が家のカレーを作ってみませんか？向原保育園のカレールウレシピです！参考にしてください。



材料

玉ねぎ(スライス)	1 kg
にんにく(みじん切り)	10 g
生姜(みじん切り)	10 g
ラード	20 g
★ウスターソース	25 g
★ケチャップ	50 g
★黒こしょう、カルダモン、オールスパイス	各小さじ1/4
★ローリエ	2枚
★フルーツチャツネ	60 g
★トマト缶	150 g
★カレー粉	適量
★ターメリック	小さじ1/2
とりがら出汁	適量
塩・薄力粉	適量

作り方

- 1、熱したフライパンにラードを溶かして、にんにく、生姜を入れて香りを出します。(焦げないように注意)
- 2、玉ねぎを加えてしんなりするまで炒めます。
- 3、合わせた調味料(★)を2に加えて煮詰めていきます。(火加減に注意しながら、焦げないように時々混ぜてください)
- 4、全体量が半分くらいになったらルウの出来上がりです。
- 5、カレー材料を炒め、とりがら出汁とルウを加えて煮ます。塩で味を整えます。



- 6、水で溶いた薄力粉を加えて固さを調整します。

むこうはらだより

R2年度 NO.1

東大和市向原 1-4-2

042-563-3833

<http://www.mukouharahoikuenn.com/>

酷暑と言われる日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか？

今年度は新型コロナウイルスによる、登園自粛や行事の中止、規模の縮小をせざるを得ない状況がありますが、登園している子どもたちは元気に過ごしています。

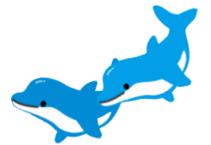


こんにちは向原保育園です

向原保育園では産休明けから就学前までの6年間の中で、乳児は育児担当制、幼児は異年齢混合保育を取り入れています。一人ひとりの成長や発達に合わせて丁寧に寄りながら、意欲を引き出し自分で考えて行動できるように助けています。

〈私たちが大切にしている事〉

- *育児担当制
- *異年齢混合保育
- *あそび
- *わらべうた
- *課業



それぞれの中に方法をもって保育をしています。

〈育児担当制〉

0～2才児は、食事・排泄・着脱・睡眠等の育児を特定の大人が行います。園でのお母さんのような存在です。

〈異年齢混合保育〉

3～5才児が1つのクラスで生活、活動をします。兄弟・姉妹のような家庭的な雰囲気を作ります。





<夏まつり>

7月2日(木)に夏まつりを行いました。

今年の夏まつりは、例年親子での参加で大いに盛り上がるのですが、規模を縮小し幼児クラスの活動として実施しました。当日は子どもたちが浴衣や甚平を着て、盆おどりを踊ったり、保育士による豊年太鼓を見たり、的当てやヨーヨー釣り、ワニワニパニックを楽しみました。



夏まつり後、クラスでは『お祭ごっこ』が始まります。盆踊りの「てんてんてまりかけて!おどりたい!!」と言って曲をかけてもらい踊ったり、園や家庭で体験したお祭りのことを思い出し、ヨーヨーつりやかき氷屋さん、チョコ

バナナ屋さんとワニワニパニックは手作りして…とたくさんのお店が開店しました。自分のしたいお店のイメージを膨らませ、「いらっしゃいませ」「これください」とお店の人と買う人、小さい子が次はお店の人がやりたいと言うと、一緒にやったり交替したりして、友だちとの会話が弾み、お祭りの余韻を楽しむ姿が見られました。



水あそび：2歳児クラス

今年は天気の良い日はテラスで、タライに水を溜めて水あそびを楽しんでいます。水面を手の平で叩いてみたり、水に浮かぶボールをひしゃくですくったり、またバケツの水を頭からかぶってしまったりと、それぞれが思い思いのやり方で「水」の感触を味わっています。



シール貼り、ひも通し：2歳児クラス

様々な遊具で遊んだり、扱ったりすることで徐々に指先も器用になり、右手と左手が同じ動きではなく、違う動きをしなければならない道具も使えるようになっていきます。



どの子も自分の手元に集中しています。



つぶやき

今年は新型コロナウイルスにより、保育園でも自粛期間が続き、今までの生活が一変しました。この間家庭では、ずっと子どもと居ることに「参ってしまった」「わがままばかりで大変でした」と話す方もいらっしゃいました。緊急事態宣言が解除され、登園してきたある子が…。休みに入る前は、自分が先でないといわれず、「待てないんだよ」と自分でも話していた、少し自己主張の強かった子が、小さい子と大人が話していても「しょうがないね、まってる」と言えて、小さい子が困っていると「どうしたの?手伝ってあげようか」と腰をかがめて声をかけていました。「ん!?!」とすぐ変化に気が付きました。保護者にとっては、ずっと一緒にいることがこんなにも大変なのかと痛感した日々も、この子にとっては心にゆとりをもたらし、そのゆとりが我慢することやゆずる気持ちを育んだのではないかと成長の一部が感じられた姿でした。

